第６学年２組　国語科学習指導案

令和○年○月○日（○）第○校時

６年○組　○○名

指導者　○○　○○

１　単元名　物語を読んで、登場人物の生き方から考えたことを語り合おう

　　教材名　「海の命」立松和平　（「国語六　創造」光村図書）

２　単元設定の理由

　（１）児童について

　　「読むこと」に関しては、人物の行動や気持ちを叙述に即して読み取ることや気になるところや心を動かされたところ、共感できるところに線を引きながら読むこと、自分の生活や体験との接点を考えて読むこと、根拠を示したり引用したりしながら考えをまとめることなどの学習を行ってきている。

　　　　これまでの学習を通して、根拠となる叙述を見付けることはできるものの、読み取ったことと既有の知識をつなげて考えたり、自身のこれまでの経験等と結び付けて考えたりすることは苦手であり、作品に対する読みが深まらないことから、読み取ったことに基づいて自分の考えをまとめる力も十分には付いていない。

　（２）単元構成について

　　　　本単元では、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめる力を育成する。

　　　　教材文「海の命」は、様々な人との関わりや多くの経験を通して、主人公が自己の生き方を見つめ、成長していく物語である。物語前半の主人公「太一」は、子どもたちと年齢が近く、太一の抱く父へのあこがれは共感しながら読むことができると考える。まず、父のような漁師になることを夢見た子どもから、父や与吉じいさの死と向き合い、村一番の漁師になるまでの太一の心情や行動について叙述を基づいて読む。そして、読み取った太一の心情等を、自身のこれまでの経験等と結び付けて改めて考えたり、自分の思いと比較したりしながら、「太一の生き方」について自分の考えを持つ。さらに、各自の「太一の生き方」から考えたことを語り合う活動により、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。

　（３）指導について

　　　　指導に当たっては、太一の心情や行動について、各自が、自身のこれまでの経験等と結び付けて考えやすいように「根拠となる叙述」「自分の経験等」「考えたこと」などの結び付きを概観できるワークシートを工夫する。

　　　　また、各自が「太一の生き方」から考えたことを語り合う際には、他者の考えを受け入れるとともに自分の考えと比較しながら聞かせ、質問をしたり気付いたことを伝えたりできるよう、モデルを準備し、ポイントを見える化することで、語り合う活動の充実を図る。それにより、「太一の生き方」に対する捉えがより多面的になり読みを深めることが期待できるとともに、読み取ったことに基づいて自分の考えをまとめる力も育成できると考える。

３　単元の目標

・思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすることができるようにする。　　　〔知識及び技能〕（(1) 言葉の使い方に関する事項　オ）

・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるようにする。

〔思考力・判断力・表現力等〕（C 読むこと　オ）

・文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができるようにする。

〔思考力・判断力・表現力等〕（C 読むこと　カ）

　・言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え会おうとするようにする。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〔学びに向かう力、人間性等〕

４　本単元における言語活動

「登場人物の生き方から考えたことを語り合う」活動を位置付けた。

（関連〔思考力、判断力、表現力等〕Ｃ(2)イ）

５　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ・思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにしている。 | ①「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。②「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。 | ・粘り強く、叙述に基づいて文章を理解し、学習課題に沿って考えたことを文章にまとめようとしている。 |

６　指導と評価の計画（全８時間）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時 | 主な学習活動 | 指導上の留意点 | 評価 |
| 一次（１） | ◯学習の見通しをもつ。 | ・主人公の「生き方」に着目して「海の命」を読むことを確認する。・初発の感想として、誰のどんな「生き方」に共感するか、また「太一の生き方をもとに自分の生き方を考えてみよう」という読みのめあてを持たせる。 |  |
| 二次（２～５） | ◯全文を通読し、作品の全体構成を明らかにする。○太一の人物像を整理する。○瀬にもぐるようになった太一の心情について自分の考えをまとめる。 | ・文章構成を確認し、各場面での太一の年齢、漁師としての（漁師に対する）思いや生き方を読み取らせる。・太一の人物像が分かる部分に線を引かせ、そこから太一の人物像を考えさせる。・太一の漁師としての考え方や生き方に人物像には、おとう、与吉じいさが影響を与えていることに気付かせ、おとう、与吉じいさの人物についてもそれぞれまとめさせる。・語句と語句の関係に注意して読み、人物像をまとめている。・不安を語る母の思いを受け止めながら、瀬に潜る太一の心情について、自分の考えをまとめる。・自分の考えをまとめる際には、「根拠とした叙述」と「自分の経験等」を結び付けて考えさせるようにする。 | 〔知識・技能①〕ワークシート・語句と語句の関係を理解し、人物像を捉えているか確認・「ことば通帳」にある語句を使用しているか確認。〔思考・判断・表現①〕ワークシート叙述をもとに太一の心情を想像し、自分の考えをまとめているか確認。〔主体的に学習に取り組む態度①〕観察・ワークシート自分の経験等とも結び付けて考えようとしているか確認。 |
| 三次（６～８） | ◯太一がクエ（瀬の主）にもりを打たなかった理由を考える。○太一の生き方について、自分の経験等と結び付けて考えたことをまとめる。 | ・太一がもりを打たなかった理由を文章中の叙述をもとに考えさせる。・太一に生き方に影響を与えた父や与吉じいさの生き方とも結び付けて考えさせるようにする。・自分の経験と結び付けたり比較したりしながら「太一の生き方」について考える。・各自がワークシートに整理した内容を交流する。その際、自分の考えのもととなった根拠や経験等の違いに着目させ、分からないことを質問したり、気付いたことを伝えたりできるよう、交流のモデルを示す。・交流で出された他者の考えも参考に、再度、「太一の生き方」について考え、400字程度でまとめる。 | 〔思考・判断・表現①〕ワークシート叙述をもとに太一がもりを打たなかった理由を想像し、自分の考えをまとめているか確認。〔主体的に学習に取り組む態度①〕観察・ワークシート自分の経験等とも結び付けて考えようとしているか確認。〔思考・判断・表現②〕ワークシート交流での新たな気付きや自己の考えの変容を踏まえてまとめているか確認。 |

７　本時案（６／８）

（１）本時のねらい

　　　太一が瀬の主にもりを打たなかった理由を、文章中の叙述と自分の経験等を結び付けながら考え、理由と根拠のつながりを意識してまとめることができるようにする。

（２）本時の評価規準

　　　太一がもりを打たなかった理由を、太一の生き方に大きな影響を与えた父や与吉じいさの生き方と結び付けて考え、自分のことばでまとめている。

（３）展開（４５分）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 学習活動 | 時間 | 教師の指導・支援 | 備考・評価 |
| １　本時のめあてを確認する。太一の生き方について、自分の考えをまとめよう。太一がもりを打たなかったのはなぜか。２　瀬にもぐるようになった太一がもりを打たなかった理由を考える。３　太一の行動に対する自分の考えをまとめる。４　本時の振り返りと次時の確認をする。 | ２3010３ | 〇本時の流れとめあてを確認させる。・前時の学習を想起させ、まとめた太一の心情を確認する。〇この場面での太一の心情の変化を整理する。・不意に夢が実現した・この大魚は自分に殺されたがっている・この魚を取らなければ、本当の一人前の漁師にはなれない（泣きそう）　　　　　　　　　　↕・「おとう、ここにおられたのですか」・大魚はこの海の命〇太一の成長に大きく関係した父の生き方、与吉じいさの生き方と結びつけて考えさせる。　・父……「海のめぐみだからなあ」　・与吉…「千匹いるうち一匹をつれば、ずっとこの海で生きていける」　　海とともに生きる　➤海の命を大切にした父や与吉のような漁師に…　　➤これからも漁師として生き続ける。　　➤漁師であり続けられることに対する感謝（例）これからも父や与吉じいさのように海とともに生きていきたい。そのためには海の命（瀬の主）とも、ともに生きることが大切。○今までの自身の経験や自分のこれまでの言動と比較しながら考えさせる。○本時で学んだことを振り返らせ、次時の学習を確認させる。 | 〔思考・判断・表現①〕ワークシート叙述をもとに太一がもりを打たなかった理由を想像し、自分の考えをまとめているか確認。 |